

吉永中学校と三石中学校の統合 後の学校名について

備前市教育委員会

R2.3

統合準備委員会

- ▶ R2年7月 吉永中学校と三石中学校の中学校再編整備実施計画決定
- ▶ R2年11月～ 統合準備委員会設置
- ▶ 統合に向けた協議開始 各部会で統合に向けた協議が進行中

統合準備委員会メンバー

(三石吉永の小中P及び学校関係者、地域住民、教育委員会事務局員)

- ▶ ・総務部会 通学方法・制服体操服等の学校独自用品・学校環境整備・教育活動等
- ▶ ・学校部会 教育課程・学校行事・事前交流・学校備品・移転計画等
- ▶ ・PTA部会 PTA組織運営・事前交流事業・地域行事への協力等
- ▶ ・記念事業部会 式典及び記念行事・歴史、伝統の保存等
- ▶ ・幹事会 提案事項の調整・委員間調整・部会に属さない事項の協議等

○統合後の学校名については統合準備委員会で協議していくことが決定される。

- ▶ (幹事会での議論を経て準備委員会へ提案という形で承認)

学校名について1

▶ ① 幹事会での協議

- ▶ 吉永中学校と三石中学校が統合するにあたっての統合後の中学校の名称について
- ▶ 「新しい校名」とするか「既存の中学校名」とするか で議論してきた。

○吉永、三石の考え方

- ▶ ・吉永とすれば、現在の校名の「吉永中」を引き継ぐ形がベストであり、校名変更は受け入れられない。
- ▶ ・三石とすれば、三石中の名にこだわってはいないが、新しい学校を作っていくという事で、現在の学校名以外の校名にしてほしい。

3

学校名について2

▶ ② 協議したが平行線 (新しい校名 OR 今の中学校の名称)

- ▶ 吉永、三石のそれぞれの意見が異なり、このまま協議を続けても平行線であり、調整することが困難な状況。

▶ ③ 個人に責任を負わせない形で考えてほしい。できない場合は、教育委員会が提案を。

- ▶ 校名の決定に関わって、個人に責任を負うような形にしてほしくない。との意見があり検討。
- ▶ 個人に責任を負わせないという意味は、個人がこう言ったからこうなったということについて、「勝手に決めている。」とか「あの人がこういったからこうなった。」など個人の責任追及につながる恐れがあり、そういったことに陥るのを避けたいということ。

4

学校名について3

▶ ④教育委員会が提案

- ▶ 「最終的に市教委が調整案を提示して、全体会へ報告し、了承を得るという形の決定が個人の責任を負わせない方法として考えられる。」との1つの考えを示した。
- ▶ 教育委員会としては、校名の決定方法が定まらないまま長引けば長引くほど、子どもたちが巻き込まれていくという懸念があると考える。
- ▶ 又、折り合いがつかないからと言って、統合を白紙に戻すことだけは避けたい。最終的には、調整に乗り出すこともやぶさかではない。校名の決め方について考え付く方法を出してほしい。と投げかけた。結果的には教育委員会が校名に関しての調整案を示すことについて幹事会で合意。

⑤決まったことには協力していく。

- ▶ 教育委員会が提案する事項に関しては協力していくということで幹事会で確認。

5

共通認識

▶ 幹事会での共通認識

- 統合は子どもたちのため。魅力ある新しい中学校を一緒に作っていく。
- 校名のことで子どもたちが振り回されてはいけない。子どもたちが犠牲にならないようにしなければならない。
- 統合にあたって校名のことでお互いにもめたくはない。もめて一緒になってもよくない。
- 校名決定が原因で折り合いがつかず、統合自体がなくなるという事態はさけるべき。

6

校名検討 1

- ▶ 校名についてどのような観点で評価するかを次の4項目に集約。
- ▶ ①校名のもたらすイメージ・効果
 - ▶ 評価の視点 (新鮮さ、児童生徒のモチベーション、歴史や伝統の継承)
- ▶ ②校名に関する市民意識
 - ▶ 評価の視点 (市民の理解や納得)
- ▶ ③校名決定にかかる学校運営への影響
 - ▶ 評価の視点 (統合に要する時間、教育活動への影響、児童生徒への影響)
- ▶ ④行政コスト
 - ▶ 評価の視点 (経費等の行政コスト)

7

校名検討2

- ▶ 評価項目ごとの評価結果
 - ▶ **イメージ効果の項目については 新しい校名**
 - ▶ 新校としてのアピール・イメージ化が容易でモチベーションUPが期待できる。
 - ▶ 一方、吉永地区の生徒のモチベーション低下が懸念される。
 - ▶ **市民意識の項目については 吉永中学校**
 - ▶ 市民全体として理解・納得できるもの。吉永中の校舎を使用する。所在地が一致していることから違和感なく理解される。一方で、三石の理解と納得が課題。
 - ▶ **学校運営の項目については 吉永中学校**
 - ▶ 統合の見通しが最もつきやすく、統合のメリットを早期に実現できる。
 - ▶ **行政コストの項目については 吉永中学校**
 - ▶ 校名変更に伴い関連するコストは最小となる。

8

学校名の評価

- ▶ 「吉永中学校」が最も高く評価される。
- ▶ 最も重視した項目は、学校運営であり、中学生の健全な成長を促す環境をスムーズに整えていくための評価の視点として、統合に要する時間、教育活動、児童生徒への影響とした。

学校名の提案

- ▶ 「**備前市立吉永中学校**」とすることについて教育委員会として提案。
- ▶ （「吉永中学校」「三石中学校」は閉校し、新生の「吉永中学校」として新たなスタートをする。）

評価後の教育委員会の見解

- ▶ ①新しい学校の教育活動や学校生活の中で、統合前のそれぞれの学校の歴史や伝統が息づいているという実感を持つことが重要であり、そのための工夫を地域や学校ぐるみで行っていく必要がある。
- ▶ ②新しい学校づくり、学校生活のスタートにあたり、生徒一人一人が自尊心を持ち、相手のことを認め合い、お互いに協力しながら学校生活を送ることが重要であり、校名のことでしこりが残るようなことがあってはならない。
- ▶ ③学校再編は子どもたちの教育環境を整備するために是非とも必要なこと。教育委員会では、統合に際し新たな学校づくりに向け全面的なサポートを行う。学校名のことで統合が頓挫することは、避けなければならない。
- ▶ ※中学校の統合は子どもたちのため、是非進めさせてほしい。

統合のメリットを生かす

一定規模の集団の中で学校生活を送ることで・・・

- ①新たな出会い、人間関係の広がり
- ②社会性やコミュニケーション能力の向上
- ③切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲の向上
- ④多様な意見に触れる
- ⑤進学等への大きな集団への適応
- ⑥クラブ、部活動の選択
- ⑦運動会・文化祭・遠足・修学旅行等集団行動行事の教育効果
- ⑧体育・球技・音楽の合唱など集団学習
- ⑨班活動、グループ分け など

11

最後に

- ▶ 中学校教育には、教科担任による各教科等の専門性を踏まえた指導を通じて、小学校教育の成果を受け継ぎ、義務教育9年間の集大成として、将来社会人として生きていくために必要な資質・能力を確実に育てていくことが求められている。さらに生徒一人一人の興味や関心に応じた学びを深め、広げ、自らの人生の方向性を見だし、高等学校教育等、その後の学びにつなげていくという、極めて重要な役割が期待されている。
- ▶ また、中学生の時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気付きはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索し始める時期である。そして、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階であり、教育課程外の様々な活動（部活動や地域行事の運営協力等）に参加していくことにもなる。
- ▶ このような中学校教育の果たすべき役割や中学生の時期の特性を踏まえつつ、備前市として、中学生の成長を促す環境をつくりだすため、備前市立中学校再編整備実施計画を定めた。特に保護者の皆様には、学校教育や地域における教育環境の充実についてご理解とご協力をお願いしたい。
- ▶ (備前市中学校再編整備実施計画 前文より)¹²